

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話



新年明けましておめでとうございます。

はじめに、令和6年能登半島地震において被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、平素より四国地方整備局の港湾・空港行政にご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、旧年中は「あわみなと通信」をご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。本年も、より多くの方に読んでいただくためにも、デザイン力を活用し、伝えたい情報をイメージとしてわかりやすく届けられるようデザイン・レイアウトなどの視覚表現にも拘りたいと存じますので、引き続きお願い申し上げます。

昨年は、県内においてクルーズ船寄港回数史上最多に加え、空港にも嬉しい話題がありました。徳島空港-台北空港のチャーター便の11月から12月の搭乗率が、なんと、99%でした。我々も空港の整備事業に携わるものとして、このようにニーズが増え、多くの皆さんにご利用して頂けることは、非常に有り難いことです。

また一方で、今年4月からトラックドライバーの労働時間規制に伴う物流への影響、いわゆる「2024年問題」が懸念されている中、遠方からの貨物輸送等において海上輸送が注目され、新たなコンテナ船が就航するなど、様々なところで荷物の運び方の変化が訪れる年ではないかと思えます。我々は港湾の整備事業にも携わるものとして、みなとを利用した物流に関する安心感を感じてもらうため、勇往邁進していく所存であります。

さらに「みなと」は物流だけでなく防災面でも重要で、災害発生時には緊急物資輸送拠点になります。私たちは、「命のみなとネットワーク」(下記解説)により、災害時の物流・人流ネットワークを形成するための取組を行っております。今後も市町村と連携して防災訓練等を実施することにより、非常時にも迅速に対応できるようにするなど、ハード整備だけでなくソフト対策も推進してまいります。ぜひ皆様も「あわみなと通信」を通じて「みなと」に興味を持っていただき、応援していただければと思います。

今年も事務所一丸となり、大切な社会基盤である港湾・空港施設の整備、防災・減災対策等に取り組んでいく所存です。今後とも何卒よろしく願いいたします。

小松島港湾・空港整備事務所長 森 和彦

「命のみなとネットワーク」～“みなと”を最大限活用した災害対応～

近年、気候変動の影響により、これまでに経験したことのない豪雨による洪水や土砂災害等の気象災害が多く発生している中で、陸路が寸断され孤立化した被災地に向けた緊急物資や生活物資の輸送のほか、救援部隊の派遣や被災者の搬送等の事例も増えつつあります。

この状況を踏まえ、国土交通省では“みなと”の機能を最大限活用した災害対応のための物流・人流ネットワークである「命のみなとネットワーク」を全国各地域に形成できるように取組を進めております。当事務所では、今後も訓練の実施等で実効性を高めていくとともに、皆さまに“みなと”の重要性をPRする活動を展開してまいります。

「命のみなとネットワーク」の主な機能

緊急物資(備蓄飲料水)を緊急輸送した際の様子
令和3年10月に和歌山市で発生した大規模断水の対応

支援物資輸送拠点 (小松島市)



被災者の救援輸送拠点 (和歌山市)



生活支援拠点 (和歌山市)



「命のみなとネットワーク」形成に向けた取組

自治体(市町村等)と連携した防災訓練を実施

港湾業務艇を使用して、物資輸送や被災者搬送等の防災訓練を実施。



R3年10月に浜名港で実施した防災訓練の状況

取組の重要性をPR

過去の“みなと”を活用した支援をまとめた事例集を作成



“みなと”を通じた国際交流！～JICA研修員が徳島小松島港を見学～

11月16日、国際協力機構(JICA)の研修を徳島小松島港沖洲(外)地区において行いました。研修生は、カンボジアやエジプト、インドネシアなど計18の国の方々と、港湾の維持管理についての研修をされています。今回は日本における新技術を活用した対策事例を見学するために本港を訪れました。

新技術について、「あわみなと通信 vol.58」にも掲載している「ナローマルチビーム・レーザスキャナ・UAVを用いた港湾施設の効率的な三次元計測」(当ページ下段で紹介)の講義を行った後、沖洲(外)地区防波堤の現地視察を行いました。熱心に説明を聞いていただいた研究生から「旧来手法で自国でも調査を行っているが、日本での安全管理はどのような方法があるか」「測位観測機器の誤差範囲について日本ではどのような規定になっているのか」などの質問があり、活発な意見交換を行うことができました。

私たちも研修生との交流を深める中で、日本とは違う状況について知ることができたほか、防波堤の状態を見た研修生から「30年経過しているとは思えないほどの施設である」という話もあり、改めて日本の技術力の高さや新技術による先進的な維持管理を行っていることを客観的に認識することができました。



沖洲マリンターミナル内で概要説明
研修生リーダーが日本語で挨拶！



若手職員が徳島小松島港の利用状況
や新技術について説明しました



沖洲(外)地区防波堤(全長670m)
を歩いて見学しました！



消波ブロックの沈下が発生した箇所
新しいブロックを積増した箇所を見学



研修生と弊所職員が
活発な意見交換を行いました！



最後に記念撮影、
国際交流を深めました！

広報誌「あわみなと通信」は、当事務所HPでも見ることが出来るよ！！

バックナンバーも掲載しているからチェックしてみてね！

▶ https://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/office_c.html



あわみなと通信 vol.58



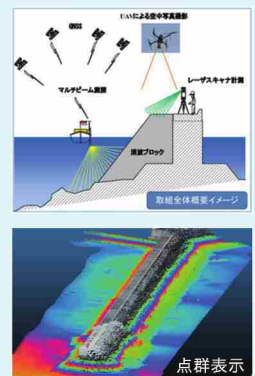
第6回インフラメンテナンス大賞(優秀賞)を受賞

「ナローマルチビーム・レーザスキャナ・UAVを用いた
港湾施設の効率的な三次元計測」

当事務所発注の「令和3年度徳島小松島港現況測量調査」で取組みを行った「ナローマルチビーム・レーザスキャナ・UAVを用いた港湾施設の効率的な三次元計測」(受注者:国際航業株式会社)が、第6回インフラメンテナンス大賞(優秀賞)(メンテナンス実施現場における工夫部門)を受賞しました。

本取り組みは、港湾施設の現況確認(天端高、変状等)を行う上で消波ブロック上での作業ならびに潜水作業を回避できるため安全な手法(陸上部:UAVとレーザスキャナの併用、水中部:ナローマルチビーム)で三次元データを取得することを目的としたものであり、維持管理メンテナンスの効率化、定量化、可視化を実現するとともに、港湾施設の適切な維持管理修繕・長寿命化、作業の安全に寄与する取り組みであることが評価されたものです。

今回の取り組みを通じて、今後も維持管理メンテナンスの生産性向上・効率化・高度化に向けた技術開発に官民連携して積極的に取り組んで参ります。



予防保全事業の取組紹介 ～本港地区岸壁(-9m)のリニューアル工事(令和4年度完了)～

当事務所で実施した本港地区岸壁(-9m)のリニューアル工事について紹介します！本岸壁は、昭和35年に供用開始して以降60年が経過しており、著しい老朽化のため平成27年から利用が制限される状況となりました。このために利用者のほか徳島県や小松島市など地元関係者からの要望を受け、令和元年度に予防保全事業を事業化、令和2年12月に現地着工しました。工事は令和4年度に完了し現在、供用を再開しています。昨年の「小松島港まつり」では、海上自衛隊の護衛艦「じんつう」が本岸壁に寄港し、海の日イベントを行いました(7月15日～16日)。なお、本岸壁にはいっぽん丸などの中型クルーズも寄港可能であることから、今後の本港地区におけるにぎわい創出などが期待されています。



利用制限状況



岸壁のリニューアル工事の様子
(新たに製作した部材の据付作業)



令和4年3月にリニューアル工事が完了

こまぼんのなるほど！ みなと講座



港湾施設は、およそ50年間は使用できるように作られているけど…このままだと機能維持できなくなりそうな施設が大半になってしまう

予防保全事業とは？

港湾などの施設が壊れてしまった場合に、今あるものを壊して、また同じ施設をもう一度作り直すとなると膨大なコストがかかってしまいます。そこで、施設を使用できる性能の限界を迎える前に施設のリニューアルを行い、少ないコストで機能を回復させようというのが「予防保全事業」です。

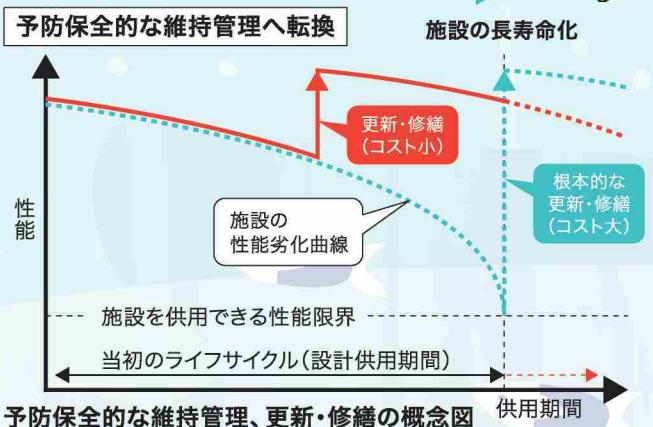
施設を定期的に確認し、破損が確認されたレベルに応じて早期の対策を行うことで、顕著な破損が発生せず、結果的にコストは少なくなり、施設の長寿命化につながります。これは、持続可能な社会を形成することが求められている現代の私たちにとって重要な取組です。

＜供用後50年以上経過する岸壁の割合＞



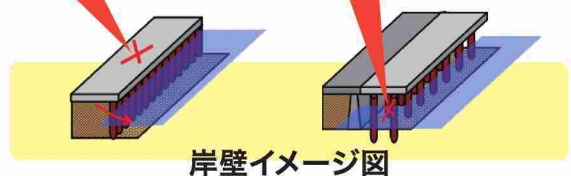
※国際戦略港湾、国際拠点港湾、重要港湾、地方港湾の公共岸壁数(水深4.5m以深)：国土交通省港湾局調べ
出典：国土交通省 港湾局「平成26年度港湾施設の維持管理に関する技術講習会 資料1」

コストをかけずに施設を長く使用できるようにする考え方だね！



出典：国土交通省 港湾局「平成26年度港湾施設の維持管理に関する技術講習会 資料1」

ここまで壊れてしまうとコスト大/ 他港での事例



出典：国土交通省 港湾局「平成26年度港湾施設の維持管理に関する技術講習会 資料1」

みなと通信

出張！みなと出前講座 in 足代小学校！

～“みなと”と海のお掃除船「みずき」のお話～

12月18日、東みよし町立足代小学校の5年生を対象に出前講座を行いました。当日は、当所職員が足代小学校を訪問し、「みなと」に関するお話や、海のお掃除船である海面清掃兼油回収船「みずき」の役割と私たちの生活との関わりについて、ビデオやクイズを通して学習していただき、港湾整備や海洋環境整備への理解を深めていただきました。足代小学校では、学校の授業において、海の問題などについて学んでいて、学習の中で私たちの「みずき」のことを知っていたことが今回の講座のきっかけとなりました。

講座では、普段は目にすることがない「徳島のみなと」におけるコンテナの積み下ろしやフェリーの操縦の映像のほか、海に浮遊するゴミを「みずき」がどのように回収しているか学習し、海洋環境について理解を深めていただきました。特に“みなと”がある生活と“みなと”がない生活を比べてみたりして私たちの生活と“みなと”の関わりを考えることで、その役割や重要性を知っていただきました。

また、12月20日には、横須海岸（小松島市）において、地元の南小松島小学校と合同で海岸清掃が行われました。両校の5年生併せて81名の生徒さんが参加、当日は徳島県の海洋環境整備船「ブルークリーン」と当事務所の「みずき」が、寒い中で奮闘する生徒さんの応援に駆け付け、会場からは歓声が上がっていました。



若手職員が「みなと」と「暮らし」の関わりなどを説明
(12/18 出前講座)



寒空の下、ゴミ拾いに奮闘する小学生たち
(12/20 海岸清掃)



応援に駆けつけた「ブルークリーン」と「みずき」をバックに記念撮影！
(12/20 海岸清掃)

高度な技術力をもった企業や技術者の方々が「国土交通行政関係功労者表彰」を受賞されました！

四国地方整備局では毎年、工事並びに業務の中で特に優れた成績を収めた企業及びそれに携わった技術者を表彰しています。今年度において、当事務所の工事で受賞された皆さまを下記にご紹介いたします。

四国地方整備局 局長表彰

表彰区分	受賞者名	工事名
優秀建設技術者(工事)	杉本 豊和 様 (りんかい日産建設株式会社 四国支店)	令和3年度 徳島小松島港金磯地区岸壁(-11m)改良工事
優秀建設技術者(工事)	東端 竜也 様 (株式会社岡田組)	令和4年度 徳島小松島港本港地区岸壁(-9m)改良工事



小松島港湾・空港整備事務所 所長表彰 表彰式の様子

小松島港湾・空港整備事務所 所長表彰

表彰区分	受賞企業・受賞者名	工事・業務名
優良工事	りんかい日産建設株式会社 四国支店 様	令和3年度 徳島小松島港金磯地区岸壁(-11m)改良工事
優秀貢献工事	株式会社岡田組 様	令和4年度 徳島小松島港本港地区岸壁(-9m)改良工事
優秀建設技術者(工事)	吉村 信耶 様 (兼子建設株式会社)	令和3年度 徳島小松島港沖洲(外)地区護岸(防波)等工事
	三宅 宏芳 様 (兼子建設株式会社)	令和4年度 徳島小松島港沖洲(外)地区防波堤等築造工事
優良下請企業	兼子建設株式会社 様	令和3年度 徳島小松島港金磯地区岸壁(-11m)改良工事
優秀下請技術者	吉村 信耶 様 (兼子建設株式会社)	令和3年度 徳島小松島港金磯地区岸壁(-11m)改良工事

出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みなと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



当事務所 TEL (0885)-32-3855

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。



事務所ホームページQRコード